魅力発信！えひめ農業NOW

令和3年4月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ（※1）で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1　掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信
※2　この動向は、4月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570
愛媛県松山市一番町４丁目 4-2
（TEL）089-912-2558
（FAX）089-912-2564
http://www.pref.ehime.jp/noukei/

「魅力発信！えひめ農業ＮＯＷ（４月分）」

東予地方局　地域農業育成室

■集落営農広域連携ネットワーク法人設立に向け本格始動

○地域農業育成室は、西条市小松町の集落営農２法人における広域連携ネットワーク法人設立に向けた各組合員の合意が得られたことから、法人の役員構成、出資金、定款、福利厚生関係、営農計画・資金計画等に係る素案作成を支援するため、新法人設立に向けた検討を開始した。

○４月 22 日、28 日、30 日、当室担当者、集落営農法人代表、ＪＡ周桑職員、愛媛大学(アドバイザー)、ＪＡ中央会とリモート形式の検討会を開催し、素案作成に係る要点を検討するとともに、各集落営農法人と検討会の内容を踏まえて協議した。

○今後、５月に社会保険労務士、司法書士の専門家を招いた協議を行い、７月に法人登記に向けた定款等の素案を策定し、９月の法人設立に向けて準備を進めていく。

アドバイザーとリモートで検討会

地元で設立に向け更に協議

■ＪＡ周桑のはだか麦「ハルヒメボシ」の適期収穫は管理確認カードで

○地域農業育成室は、ＪＡ周桑営農指導員と連携し、４つの営農センターごとに令和３年産はだか麦の成熟期調査を実施（４月 26 日～28 日）。

○これは、生産者の栽培管理の徹底や適期収穫に向けた取組みで、生産者がほ場に立てた管理確認カードに、調査員が病虫害、雑草の発生状況や収穫予測を記入し、生産者の今後の管理作業等の指導を効果的に実施しているもの。

○昨年と同様に暖冬であったため例年より１週間程度成熟が早まっていることから、収穫はＧＷ明けから順次始まっている。

○同ＪＡのはだか麦作付面積は、716ha（前年対比 108%）となっている。

成熟期巡回調査（4/27）

■優良種芋の確保に向け「さといもセル苗増殖法」を指導

○地域農業育成室は、４月 20 日、優良種芋の確保に向け、西条市旧石根地区の「(農) 大頭」、「(農) 妙口原生産組合」、「(農) 安井」の構成員６人とＪＡ周桑指導員３人を対象に、さといもの親芋副芽セル苗増殖法の講習会を開催した。

○講習会では、当室担当者が増殖法の概要と親芋からの副芽の切り出し方法、セルトレイへの移植方法について講習した後に、(農) 妙口原生産組合の構成員が作業を行い、５個の親芋から約 100 株のセル苗を作成した。

○出席者からは、「思っていたより難しい作業ではなかった、自分でもやってみる」との前向きな意見があった。

○当室は、地域内での優良種芋の安定確保のため、本技術の定着に向け指導をしていく。

親芋から副芽を切り出す作業

挿芽したセルトレイ

※ 親芋副芽セル苗増殖法…親芋をバーミキュライト等の培地に入れ、30℃前後の条件で伏せ込み、副芽を萌芽させる。その副芽をセルトレイに移し、30～40 日育苗し、種芋用の優良な種苗を増殖する方法。

■青年農業者「さつまいも栽培プロジェクト」の活動を支援

○地域農業育成室は４月 21 日、新居浜市青年農業者組織が取り組む「さつまいも栽培プロジェクト」を効果的に推進するため、さつまいも芋づる苗栽培ほ場の除草と農薬散布の指導を実施。

○同プロジェクトは、さつまいもの芋づる苗の安定供給を通じて協議会活動を活性化することを目的に、昨年２月から青年農業者協議会員のメンバーが中心となり共同育苗を実施しているもの。

○当日は、３月 19 日に定植した芋づるの生育状況を確認するとともに、当室担当職員が背負式動噴の安全な使用方法について説明後、手作業での除草と畝間の除草剤散布を実施。

○当室は、今後、６月下旬の定植に向け、適期作業の実施について指導を行う。

生育状況を確認し、除草を行う

東予地方局地域農業育成室　四国中央農業指導班

■うま茶振興協議会　販売部会が始動

○四国中央農業指導班は、四国中央市農業振興課とともに「うま茶振興協議会（令和３年２月設立）」を中心に、茶の産地振興やブランド化・販路拡大に向けた取組みを実施。

○４月 12 日、同協議会販売部会の初会合を開催し、新茶シーズンに備え、宇摩茶ブランド化の発信態勢を整えた。

○販売部会では、市内で生産される茶葉の統一ブランド化を目的に、脇製茶場、大西茶園及びＪＡうまで生産された高品質茶葉をブレンドし、「うま茶(仮称)」として販売開始することで合意。

○当班は「うま茶(仮称)」の知名度向上に向け、お茶を楽しむ新しい生活様式を提案するとともに、同協議会では、６月から市内の産直市を皮切りに販売促進活動を展開し、この活動範囲を東予地区に拡大する。

第１回販売部会　販売促進活動の意見交換

統一ブランド商品のイメージシールと幟

■サルによる被害を減らすために農業者と対策を検討

○四国中央農業指導班は、４月１日、四国中央市土居町天満地区で鳥獣害対策実証中の展示ほ（地獄檻）で６頭のサルが捕獲されたことを受け、捕獲時の状況や周辺環境等についてえひめ地域鳥獣管理専門員（四国中央市職員）を交えて現地で農業者に聞き取り調査を実施。

サルの行動について聞き取り

○その結果、サルが展示ほ周辺の果樹園等に出没した際に追い払いを行うと捕獲される傾向があった。

○そこで、当班が農業者に展示ほ周辺の果樹園でサルが出没した際には必ず追い払いをするよう指導したところ、４月 20 日にはさらに９頭のサルが捕獲された。

○当班では、同地区の鳥獣被害軽減に向け、引き続き農業者等と連携、協力して、追い払いを組み合わせた効果的な展示ほの実証方法を検討していく。

■さといも薬剤散布通路の定着

○四国中央農業指導班は、四国中央市土居町の基盤整備田地区において、さといも疫病防除対策として「疫病をまん延させない対策（散布通路の確保）」を推進している。

○昨年度実施した、ほ場内に散布通路を確保する実証試験の結果から、発病する部位に薬剤を効果的に付着させること、防除作業で茎葉を損傷させないこと、パートナーの協力によるスプレーホース移動での労力軽減等を実施することで、散布通路を設置しても収穫量が減少しないことについて確認。

○当班が試験結果を部会員等に周知した結果、本年の大区画圃場におけるさといも栽培者のうち、５地区、６戸、６ha で薬剤散布通路が設置された。

○４月 27 日現在、さといもの出芽が始まり生育は順調。

○当班では、疫病の初発を警戒し、発生した場合の防徐対策を徹底する。

ほ場中央部に設置した散布通路

ほ場畦畔部に設置した散布通路

東予地方局今治支局　地域農業育成室

■「愛媛果試第 28 号」（紅まどんな）の品質向上についてモデル園を設置

○地域農業育成室は、愛媛果試第 28 号（紅まどんな）の施設栽培農家を対象に、品質向上を目的とした間伐（せん定）モデル園を４月に設置した。

○樹が生長し大きくなった施設ほ場では、隣同士の樹が混み合い、日光が樹冠全体に十分当たらなくなるため、着色、糖度等の品質が低下し、紅まどんなとして出荷出来ない果実が増加する。

○そこで、混み過ぎている樹を１本おきに間伐し、樹と樹の間隔を広くすることで、日当たりや作業性が改善され品質向上が期待できる。

○施設栽培では、間伐に抵抗がある農家が多いため、今後は今回のモデル園を通し、品質向上における間伐の重要性を普及していく。

間伐前（樹が混み、日当たりが悪い）

間伐後（日当り、作業性が向上）

■さといものセル苗生産がスタート

○地域農業育成室は４月 30 日、セル苗での種苗生産による優良種芋の安定供給を図るため、JA おちいまばり玉川育苗センターにおいて、県農林水産研究所と連携し、ＪＡ部会員代表者８人を対象に、親芋からのセル苗の切り出し方法や育苗管理方法等の指導を行った。

○セル苗育苗は無病で生産性の高い種芋の生産ができることから、農家の期待は大きく、今後、セル苗生産技術の普及定着を図りながら、ＪＡえひめ南産の種芋の導入と併せて、安定した種苗の供給体制の構築を進めていく。

セル苗切り出し作業

セル苗植え付け（セルトレイ）

東予地方局今治支局　地域農業育成室しまなみ農業指導班

■新規就農者のかんきつ施設栽培導入支援

○しまなみ農業指導班は４月 19 日、地域農業育成室の協力のもと、かんきつの施設栽培を検討する新規就農者２人を対象に、施設の導入方法について指導した。

○当日、導入予定園地の面積や栽植状況等を確認し、ハウスの建設方法をはじめ、苗木の早期成木化に向けたせん定方法やかん水等肥培管理について指導した結果、参加者は、「早期成木化に向けた苗木管理の重要性がわかり、大変参考になった」と話していた。

○当班では、今後も新規就農者等の栽培技術向上を図り、就農定着と経営の安定化を支援する。

簡易ハウスの建設指導を受ける
新規就農者

苗木のせん定を学ぶ新規就農者

東予地方局今治支局　産地戦略推進室

■甘長とうがらしの料理レシピ開発に関する打ち合わせ

○産地戦略推進室は４月２日、今治明徳短期大学の教員と甘長とうがらしの料理開発に係る打ち合わせを行った。
○打ち合わせでは、甘長とうがらしを使用したレシピを 10 品程度開発すること、７月に試食会を行い、完成したレシピのお披露目会をすること、今治明徳短期大学内の農園で甘長とうがらしの栽培実習を行うことを申し合わせた。
○教員からは、「甘長とうがらしのレシピを開発し、多くの人に食べてもらいたい」等積極的な意見が出た。
○当室では、本年度より局予算「甘長とうがらし産地強化事業」に取り組んでおり、技術課題の解決とともに、試食会を開くなど、広く甘長とうがらしの PR を行っていく。

学生と実習を行うほ場

■醸造用ぶどうのかん水管理について検討

○産地戦略推進室では、４月２日から、今治市上浦町の醸造用ぶどう栽培園において、かん水管理の実証試験を開始した。
○当園では昨年、夏の高温干ばつにより果実が萎び、収穫量が減少したことから、生産者とかん水施設の整備を計画。今年２月、生産者と点滴チューブを樹冠下に設置した。
○今後、収穫まで 10 日おきにかん水を実施。新梢や果実の生育状況等を調査し、醸造用ぶどう栽培におけるかん水管理について検討する。

生産者と点滴チューブを設置

実証園

中予地方局　地域農業育成室

■樹園地再編整備後の営農支援に向けて関係機関が連携

○地域農業育成室は４月８日、中予地方局農村整備第一課と合同で「農地中間管理機構関連農地整備事業」対象の由良地区工事予定地における現地確認を行った。

○現地確認の結果を基に、伐採樹の処分・活用方法など工事に伴い発生する課題について、関係機関で組織する「松山地区災害復興・樹園地再編ワーキングチーム」で情報共有し、解決策の検討を進めることにしている。

松山市興居島の由良地区工事予定地で工事の進め方や水源などを確認した

○また、同事業の整備工事が進む下難波地区については、工事の進捗に伴い耕作者の植栽計画や施設・機械導入要望を再確認して、チームによる一体的な営農支援を進めるため、定期的に耕作者との個別面談やチーム協議を実施している。

○管内では６か所で樹園地再編整備が計画されており、今後もチームが主体となり、担い手への農地集積とスムーズな営農開始、施設化推進による収益力強化を目指す。

■ハウスなすで土着天敵を活用

○地域農業育成室は３月 24 日、ＪＡえひめ中央新規就農研修センターにおいて、定植直後の半促成なすハウス（１戸、７a）に土着天敵（タバコカスミカメ）の放飼を行った。

○アザミウマ類防除は、薬剤抵抗性の発達や有効な薬剤が少ないことなど、対策に苦慮していることから、当室では天敵による防除を推進、指導している。

○４月６日には、土着天敵の定着を図るため、天敵温存植物（クレオメ）を定植した。

ハウス内に温存植物を定植

○天敵の利用により薬剤抵抗性の回避や農薬使用の削減が見込まれ、今後、露地栽培においても実証ほを設置し、技術の普及を進める。

中予地方局地域農業育成室　伊予農業指導班（４月分）

■麦中間一発施肥技術の実証ほは生育順調

○伊予農業指導班は、裸麦の省力高品質多収に向け、基肥なしで生育中に１回施肥を行う栽培方法を実証しており、現在登熟期を迎えている。
○慣行の栽培方法（基肥一発施肥）と比較すると 11 月 15 日播種は明確な差は見られないが、12 月 6 日播種においては草丈が低く、葉が大きいという差が見られた。
○今後、収穫期調査を行い、慣行栽培との収量・品質を比較し実証効果を確認する。
○今年の管内の作況は、収穫が例年より 10 日程度早く、生育は順調で豊作とみられる。

実証ほの生育状況

■集落営農組織においてスクミリンゴガイ対策実証ほ試験の骨子案が完成

○伊予農業指導班は、今年度、管内集落営農組織において、スクミリンゴガイ実証ほ試験を実施するにあたり、ほ場設計や試験方法の検討を重ねてきた。
○今回、実証ほ試験を行う組織（生産者）と、試験方法の最後の詰めの調整を行い、骨子案が完成した。
○防除の手間や生産コストを上げないよう、比較的安価な農薬を箱施用剤の１つとして散布したり、田植え直後の除草剤と同時に散布するといった工夫や、水口にネットを設置するなど、管内で普及性の見込める手法を組み入れた。
○田植え後、約２週間が勝負の時期となるため、当班では関係機関とも連携し、定期的な巡回調査や適切な指導を継続していく。

■七折小梅の予想出荷量 65t を確認

○伊予農業指導班は４月 21 日、七折小梅の今年の予想出荷量を把握するため、ななおれ梅組合役員と連携し園地確認による結果量調査を実施した。
○県では、今年度から七折小梅の生産安定化を進めるため、「七折小梅産地再興支援事業」に取り組んでいる。
○生産者から提出された予想出荷量は約 65t と、３年ぶりの高収量が予想されるものの、園地調査では管理不足による品質低下や、生理落果、少雨による肥大抑制等により出荷量が変動する可能性がある。
○また、着果が多く小玉化が心配される園地については、摘果の指導を行った。
○当班では、本事業の推進のため七折小梅生産安定プロジェクトチーム会議を通じ関係機関と連携して、技術実証ほの設置や優良苗木の生産等適切な指導を継続していく。

中予地方局地域農業育成室　久万高原農業指導班

■トマト研修生の受入式開催、さっそくトマト接ぎ木の実習に取組む

○久万高原農業指導班は４月１日、久万農業公園研修センターで開催された本年度トマト栽培研修生３人の受入式において、トマト栽培を始める前の心構えや当面の栽培管理等について説明した。

○その他、ベテラン農家を講師とした「改良呼び接ぎ」による接ぎ木の実習が行われ、当班は接ぎ木のポイントや留意点等について、研修生個別に助言・指導した。

○当班では、今後も２年目の研修生２人を加えた５人を対象に、トマト栽培における作業管理のタイミングに合わせた定期的な勉強会を実施する。

研修生の受入式

ベテラン農家による接ぎ木指導

■生産量向上に向けて　刷新したピーマン栽培マニュアルを配布

○久万高原農業指導班は、３月 30 日～４月６日にかけて開催された久万高原ピーマン部会（部会員数：127 名）の各支部栽培講習会で、令和２年度に刷新したピーマン栽培マニュアルをもとに、育苗や定植後の栽培管理のポイントを指導した。

○この講習会は、生産量向上に向け、栽培管理技術のレベルアップを目的としたもので、参加者からは病害虫防除、定植や誘引作業等について積極的な質問があり、意欲の向上が見られた。

○当班は、今後も生産量向上に向け、取組初期農家（栽培歴３年未満の農家）を対象に、重点的な栽培技術指導を実施していく。

配布した栽培マニュアル

熱心に受講する栽培者

中予地方局　産地戦略推進室

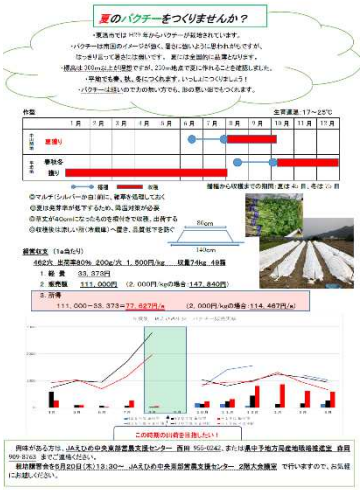
■大々的にパクチーの夏季新規栽培者を募集

○産地戦略推進室は、パクチーの産地化を進めるため、ＪＡえひめ中央と連携し、新規栽培者募集チラシを同ＪＡの広報誌５月号に折り込み、東温市内の全組合員に配布することとした。

○これは、夏場の暑さに弱いパクチーは、全国的に８・９月の市場出荷量が少なく、高値販売が期待できることから、この時期の出荷量の増加を狙い、栽培ほ場の標高が比較的高く、６月中旬から７月初旬に播種ができる東温市を中心に募集するもの。

○なお、５月20日には、栽培希望者に対しＪＡ東部営農支援センターにおいて、栽培講習会を開くこととしている。

○当室では引き続き、新規栽培者の確保や栽培指導、ＰＲ活動等により、夏季生産量を確保し、管内リレー出荷による周年出荷体制を構築する。



新規栽培者募集チラシ

■さくらひめ鉢物の市場・消費者ニーズ調査を開始！

○産地戦略推進室は、「さくらひめ鉢物産地づくり推進事業」の一環として、市場・消費者ニーズの把握及び情報発信を目的にキャンペーン等を開始した。

○４月 19 日及び 21 日に、市場ニーズを調査するため、豊明花き（株）など県外７市場に異なる大きさの鉢（3.5 号～５号）で栽培したさくらひめを送付。５月下旬を目途に市場や花屋からの評価を確認する。

○また、４月 20 日から６月 30 日にかけて、消費者ニーズの把握や情報発信につなげるため、『「さくらひめ」きゅんです♡キャンペーン』（第１回）を実施。さくらひめの鉢物（約 8,000 鉢）にＱＲコード付きのラベルを添付し、購入者がＱＲコードから『鉢物「さくらひめ」』ＨＰにアクセスし、アンケートに回答する仕組み。

○当室では、これらの取組みで得た結果について栽培農家に周知し、今後の生産に繋げるとともに、引き続き、産地情報等の発信を行い認知度の向上及び販売促進を図る。

各市場へ送付したさくらひめ鉢物

出荷されるさくらひめ鉢物とキャンペーンＰＯＰ

南予地方局　地域農業育成室

■石こう資材を使った濁水軽減による四万十川の水質向上

○地域農業育成室は、水稲の代かき時の濁水軽減に効果のある石こう資材を活用し、環境に配慮した農業を推進している。

○これは、四万十川の源流である広見川流域の代かき時期に発生する濁水が、河川の生態系や観光産業に影響があることなどから、県を含む広見川農業用排水対策協議会の活動の一環として実施しているもの。

○これまでは、止水板の設置や浅水代かきを実施してきたが、顕著な水質改善に至っていないことから、昨年度、土に含まれる細かい粒子を早く沈殿させる効果がある石こう資材の実証を、宇和島市、鬼北町、松野町の８地区 2.2ha で実施。その効果が確認できたことから、今年度から面的に拡大して検証している。

○このうち、４月８日、宇和島市三間町の「農事組合法人はざめ」が耕作する水田３ha において、10ａ当たり 30 kg散布したところ、代かき作業後の濁りが軽減されていることを確認した。また、その他６地区 1.8ha でも、継続的に観察することとしており、当室では、これらに加え、土壌改良や米の食味向上効果も確認しながら、環境に配慮した売れる米づくりに取り組む。

石こう資材投入で濁りが解消した排水

石こう資材を説明する普及指導員

■加工用びわ生育順調で増収見込み

○地域農業育成室は４月 23 日、ＪＡえひめ南と連携し(株)源吉兆庵に供給する加工びわの生産見込み調査を行い、今年で収穫３年目を迎える宇和島市三浦西地区では、昨年より 1.5 倍程度の収量増加が見込めることを確認した。

○これまで、当室では成木化に向けた指導をしてきたが、一定の樹容積が確保できたことなどから、昨年産以降は収量増を目指した整枝法等を指導している。

○また、１月の寒波襲来時には、被害を受けやすい大玉果の除去を速やかに指導した結果、生育は概ね順調に進んでいる。

○今後、当室では「高級菓子用くだもの育成・ブランド開発事業」を活用し、収穫後の樹勢回復等の個別指導や優良園地視察等を行い、加工用びわの安定生産に繋げる。

袋がけ数を調査し収量予測

宇和島市三浦西地区びわ園

南予地方局地域農業育成室　鬼北農業指導班

■キウイフルーツ花粉ビジネス：かいよう病感染防止対策・早期成園化に向けて

○鬼北農業指導班は、キウイフルーツの花粉栽培から精製、販売までを一括して行う新たなビジネスモデル（実施主体：「松野町キウイフルーツ花粉事業組合（組合員６名）」）の推進に取り組んでおり、４月 27 日、松野町農林公社内に建設された花粉精製施設において、精製機の組立、動作確認を関係機関と実施した。

○この機器は、(株)アグリスが製作した日本唯一の花粉精製機で、ニュージーランド製の機器と同程度の能力を有している。

○今年度は、生産者と確認しながら採葯から花粉精製までの一連の工程に加え、キウイフルーツかいよう病の検定を行うこととしている。

○当班は、令和４年度の本格的な花粉精製を目指して、花粉用苗木の育成指導を行い、全国初となるキウイフルーツ花粉の産地づくりを推進する。

（株）アグリス製花粉精製機

■ＥＵ加盟国へのゆず輸出に向けて

○鬼北農業指導班は４月 22 日、ドイツへのゆず生果輸出に向けて、ブランド戦略課と今後の作業内容について協議した。

○ブランド戦略課からの出荷量や輸出ルート、農薬使用の説明を踏まえ、輸送時の衝撃による果実劣化を避けるための梱包方法を検討するとともに、班内にある登録園地でゆずの生育状況や、栽培管理方法を説明し、今後の適切な栽培管理・収穫調整方法を確認した。

○当班は、今年の秋の輸出に向け、ブランド戦略課やＪＡえひめ南、植物防疫所と連携しながら、適切な栽培管理・収穫調整を行い、地域の主幹作物であるゆずの販路開拓を目指す。

登録園地の状況を説明

今年度は開花が早い

■鬼北地域は「半促成きゅうり」で儲かる農業の実現

○鬼北農業指導班は４月 27 日、きゅうり産地の再興に向けた取組の一つとして、ＪＡえひめ南と連携し、鬼北町日吉地区のハウスで生産者ら 12 人を対象に、半促成きゅうり現地研修会を開催。

○鬼北地域（松野町、鬼北町）の半促成きゅうりは、15 年以上品種更新されていなかったことから、昨年度の品種試験により、耐病性があり、かつ収量、秀品率とも高い品種を選定。その品種導入を当班が呼び掛けたところ、今年度は栽培面積の７割が新品種に更新された。

○一方、当班の働きかけに呼応し、新規栽培者２名も確保されたことなどから、研修会では、新品種の収量向上を目指した栽培管理法や旧品種と比較した生育・収量データなどを丁寧に報告した。

○当班では、今後、月１回程度の研修会を開催しながら、生産者に品種特性を理解してもらい、きゅうりで「儲かる農業」を実現し、鬼北地域のきゅうり産地再興を目指す。

生産者への講習会の様子

南予地方局地域農業育成室　愛南農業指導班

■河内晩柑の密植園解消で安定生産を目指す

○愛南農業指導班は４月７日、青年農業者協議会員ら 20 人を対象に、河内晩柑の密植の解消を目的としたせん定講習会を実施した。

○河内晩柑は樹勢が強く枝の伸長が旺盛であることから、適切な管理をしなければ密植となり、横枝の枯れ上りによる収量低下や高樹高による作業性の低下が問題となる。管内でも老木樹を中心に密植園が散見されることから、思い切った縮間伐の実施が求められている。

○そこで講習では、永久樹と縮間伐樹について明確な差をつけることが重要であることを説明し、縮伐を実施。青年農業者からは「密植した園内は通りにくいことも分かっていたが、やり方について理解できたのですぐに縮伐に取り組みたい」との意見があった。

○当班では、今後も密植園の解消に向け実証ほの設置や現地指導に取り組み、縮間伐の効果を広く生産者に周知していく。

縮伐のポイントを指導

■樹高切り下げ実証ほの成績まとまる

○愛南農業指導班は、河内晩柑の収穫作業の省力化などを目的に樹高切下げの実証モデル園地を設置しており、４月 22 日に収穫調査を行った。

○河内晩柑は、樹勢の強さなどから背丈の倍以上の樹が多く、産地を維持していくには作業の省力化、効率化が喫緊の課題となっている。

○調査の結果、対象樹は低樹高化の途中であることから収穫時間はあまり変わらなかった。しかし、時間当たりの収穫果数は地に足をつけた区に比べ、三脚を使用した区は 56%と、樹冠下部に多く着果させることが効率化には重要と判明した。

○今後、当班ではＪＡと連携し、樹高切下げ実証の効果を複数年計画で進め、生産者へ「目に見える形」で伝えながら、作業の省力化、効率化を進めていくこととしている。

樹冠上部の収穫

樹冠下部の収穫

■就農研修修了式及び開講式の開催

○愛南農業指導班が運営に協力しているＪＡえひめ南就農研修の修了式及び開講式が４月 14 日に行われ、２人が修了し、新たに３人が入講した。

○この研修では、就農候補者が同ＪＡの研修ほ場において１～２年間、かんきつや野菜の栽培実習や座学を積むこととなっており、当班は、基本的な農業技術や実践技術の習得を目指し、定期的に講座を開催している。

○今回、研修を修了した２人はすぐに就農し、かんきつを主体に独立経営を行っていくこととしており、地域農業のリーダーへの成長が期待される。

○当班では、関係機関と連携して、新規就農者に対し就農計画策定、実践に向けた技術習得や補助事業等の活用について支援を行っていく。

修了証書授与

就農研修生と関係機関職員

南予地方局　産地戦略推進室

■ゆずの作業性向上に向けた若木の誘引実証園を設置

○産地戦略推進室は４月 27 日、樹勢が強く高樹高になりやすいゆずの樹形を作業しやすい形に育成するため、松野町に、若木の誘引方法の実証ほを設置した。

○当日は、当室及び鬼北農業指導班の職員がゆずの幼木（「鬼北の香里」５年生）を用いて、上向きに伸びる主枝を寝かせ、均等に配置する誘引方法を説明し、生産者と共に作業を実施。生産者からは「幼木の管理方法についてはあまり意識してなかったため、大変参考になった」との話があった。

○当室、班では、今後、新たにゆずの植付けを行う生産者に対し、実証ほを活用して若木管理の指導を行うとともに、樹齢が経過している園地については、縮伐や低樹高化の実証園ほを設置し、労働生産性の向上に向けた取組を進める。

管理方法の説明

生産者による誘引

南予地方局八幡浜支局　地域農業育成室

■スマート農業技術の実装・普及に向け、新たに「西宇和スマート農業推進協議会」を設立

○地域農業育成室は４月 30 日、県、市町、ＪＡ、生産農家の代表、ベンダー企業等で構成する「西宇和スマート農業推進協議会」を新たに設立した。

○西宇和かんきつ産地では、令和元年度から２年間、気象ロボット、アシストスーツ、ＡＩ選果機等の効果実証に取り組んだ結果を踏まえ、今年度からは、更なるデータの蓄積や実装・普及に向けた取組を加速化するため、同協議会が中心となって、新技術の生産現場への普及推進、ＣＡＴＶによる情報発信、経営評価等を計画している。

○生産農家の代表からは、「新たに設立した協議会では、スマート機器の普及を早く進めてほしい」との声が寄せられており、当室は、関係機関と連携してスマート営農体系の確立を図り、未来型かんきつ産地を目指す。

実証に取り組んでいる気象ロボット

庭先選別の省略化が期待できる
ＡＩ選果機

■清見の夏季販売に向けた、新たな貯蔵方法を実証

○地域農業育成室は、清見の出荷安定による価格維持のため、夏季販売に取り組んでおり、この度、従来の貯蔵方法より省力で貯蔵効果の高い方法の普及に向けて、試験区を設定した。

○従来の貯蔵方法は、コンテナ内の果実の上に新聞紙を広げて、ポリ袋で包み込み貯蔵しているが、貯蔵作業に手間がかかることや果実の腐敗管理が難しいことが問題となっている。

○そのため、今回、貯蔵中の果実品質の向上及び省力化を図る方法として、結露防止が可能な多孔質鮮度保持フィルムの大袋で、複数のコンテナを同時に被覆する方法を提案。この方法は、貯蔵作業を大幅に省力化でき、果実の腐敗管理も容易となる。

○当室は、労力も含めたコストや貯蔵果実のコハン症の発生など、新たな貯蔵方法の効果を確認するとともに、貯蔵果実の体質強化を図るためのカルシウム剤散布の指導を行っていくこととしている。

農家倉庫内の従来の貯蔵方法

省力化を目指した新たな貯蔵方法

南予地方局八幡浜支局地域農業育成室　大洲農業指導班

■大洲市野佐来地区　集落営農法人設立に向けた研修会を開催

○大洲農業指導班は４月 20 日、大洲市、県南予地方局農村整備課と連携し、野佐来地区の農業者を対象に、農事組合法人設立に向けた研修会を開催。同地区では荒廃農地の防止を図るため、集落営農法人への農地集積を目指しており、法人設立の第一歩として実施したもの。

○研修会では、司法書士を講師に招き、定款作成の際に必須となる記載事項や注意点などの説明を受けた。参加者からは「理事の人数の制限は」「出資額の決まりは」など具体的な質問があり、法人設立への理解を深めた。

○当班では、今年６月末の法人設立に向けたサポートや収益性向上を目指した営農計画作成支援などを行い、地域のモデルとなる法人育成に引き続き取り組む。

野佐来地区のリーダーが法人設立の意向を説明

南予地方局八幡浜支局地域農業育成室　西予農業指導班

■大野ヶ原にんにくの予約販売開始！

○西予農業指導班は、西予市大野ヶ原で寒地系にんにく「ホワイト６片種」の産地化を支援しており、今季より大野ヶ原にんにく組合員や地元生産者 12 名が本格的な栽培を開始する中（栽培面積：50a）、初の販売に向けた施肥管理や病害虫防除指導を行っている。

○今季は天候にも恵まれ順調に生育しており、６月の収穫期を前に、松山市の協力企業が販売元となり、チラシやＳＮＳ等による「生にんにく」の予約販売を実施している。

○西日本初の生産となる「寒地系にんにく（生にんにく=収穫後１週間に限定される）」とあって、興味を示す消費者や飲食店なども多く、新たな産地として期待が高まっている。

○当班は同組合に対し、今後の管理・防除など安定生産に向けた栽培技術指導を行うとともに、栽培技術確立と種子用にんにくの確保に向けた実証試験を行い、加工・販売まで見据えた産地化を支援していく。

生にんにく販売のチラシ

にんにくの生育状況

■農事組合法人「いのべにし」の高収益作物生産拡大

○西予農業指導班は、西予市宇和町の「(農）いのべにし」の高収益作物の生産技術指導を行っており、さといもの移植作業や青ねぎの病害対策等について指導している。

○当法人は、労働力不足により作業が遅れ気味であったが、２月の外国人技能実習生２人の受け入れと、地元アルバイター1 人の雇用により作業性が向上してきた。

○高収益作物の栽培面積は、青ねぎ 98ａ（昨年 45ａ）、さといも 20ａ（昨年 15ａ）と計画的に拡大しており、当班では今後、高収益作物の多角化や、周年雇用が可能な作業体系が組めるように支援していく。

外国人研修生によるさといもの定植

青ねぎの収穫

■令和３年産作物の防除本格化に向けて

○西予農業指導班は４月８日、西予無人ヘリ防除組合連絡協議会（宇和町）のオペレーター21 人を対象に、麦の生育状況に応じた赤かび病防除と無人ヘリコプターの安全操作に関する講習会を実施。

○管内の３年産麦の生育は平年よりやや早いことから、現在、開花・乳熟期である。出荷に影響を与える麦赤かび病に最も感染しやすい開花期以降の適期防除に努めるよう指導を行った。

○また、同協議会は、地域で水田農業を営む担い手で構成される４組織からなり、各組織が所有するヘリコプターのメーカーとともに使用上の留意点と安全操作の確認を行った。

○今後、当班では、生育や病害虫の発生状況に応じた防除の実施及びオペレーターの負担軽減のため、同協議会と連携して無人ヘリによる防除体系を検討していく。

３年産麦の生育状況に応じた防除を指導

無人ヘリの安全操作を確認

南予地方局八幡浜支局　産地戦略推進室

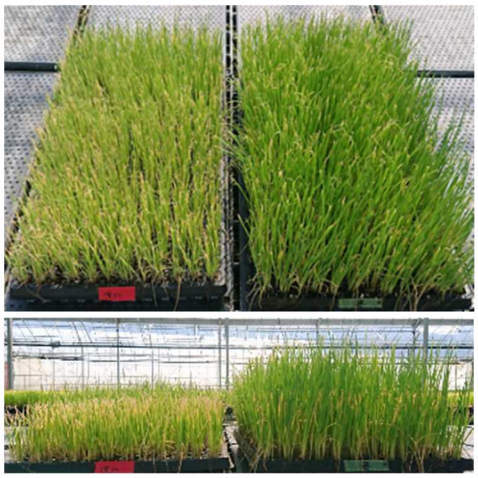
■加工用青ねぎの冬季育苗技術を検討

○産地戦略推進室は令和２年 11 月～令和３年４月にかけて、加工用青ねぎの冬季育苗技術の改善に向けた実証試験を実施した。

○現行の冬季育苗において問題となっている苗の生育不良や健全育苗率の低下に対して、８種類の試作培土で検討した結果、ゼオライトや亜リン酸肥料を含有する培土では、苗の生育量が約 25%増加、健全育苗率が約 10%程度改善し、培土によっては病害の発生を約 90%抑える事例が認められた。

○本結果を基に、加工用青ねぎの生産を担う(株)百姓百品村及び試作培土の提供元である伊予木材(株)の担当者と協議した結果、現行の育苗培土からの切り替えを視野に入れつつ、更なる検討を重ねていくこととなった。

○当室では今後、資材や技術の費用対効果にも着目しながら、引き続き安定生産技術の確立を図っていく。



慣行培土（左）と試作培土（右）の生育比較

技師　香口　智宏

農産園芸課　高度普及推進グループ

■ＬＥＤ照明を利用した閉鎖型育苗技術の確立に向けた実証スタート

○高度普及推進グループは、ＬＥＤ照明を利用した育苗技術の確立に向け、県内育苗会社及び農業法人と閉鎖型システムによる育苗実証を開始した。

○同システムを導入する大手育苗会社では、これまで県内外に出荷する秋苗を真夏の高温となるハウス内で生産してきたものの、近年の高温から社員の労働環境の改善が課題となっていた。また、葉菜類等を生産している農業法人では、外気温や日照に左右されない安定した生産体制の整備が経営上の課題となっていた。

○今回の実証では、普及組織先導型革新的技術導入事業を活用し令和元年度に四国中央市で導入した閉鎖型育苗システムで得た実証結果を基に、棚ごとにＬＥＤの光量や波長、かん水量が設定できる栽培システムが製作、導入されている。

○当グループは、今回の実証により、国内外で栽培が急速に拡大しているマイクロリーフの栽培等にも取り組む予定で、低コストで導入、稼働できる閉鎖型育苗システムの改良、普及に取り組む。

種苗会社でのシステム導入協議（東温市）

農業法人での育苗実証（大洲市）

■新規品目しょうがの産地化に向け、貯蔵した種芋を定植

○高度普及推進グループは、しょうがの栽培技術を確立するため、４月２、13 日に大洲市及び東温市に設置した実証ほで種芋の定植を行った。

○本実証では、昨年度大洲市内で生産され普及組織先導型革新的技術導入事業で導入された専用庫で貯蔵した芋が種芋として使用されており、昨年 11 月以降の貯蔵試験では、庫内の温湿度やガス濃度が一定に保たれたこと等から腐敗する芋や出芽する芋もほとんどなく、種芋やひねしょうが出荷のための長期貯蔵が可能であることを確認している。

○なお、今回の栽培実証では、高知県の農業法人及び大手流通事業者の技術支援を受け、種芋の栽植量及び栽植法等が決定している。

○当グループでは、県産しょうがが年間を通して安定的に供給できるよう新しょうがの生産及び芋の貯蔵技術の確立を目指すとともに、加工や多様な流通ルートの開拓等についても支援することとしており、収益性の高い産地づくりを目指す。

貯蔵していた種芋

実証ほでの定植作業（東温市）

■さといも種芋の生産能力を確認する栽培試験を開始

○高度普及推進グループは、さといも種芋の安定供給を目指し、４月７日に大洲市において、分割して貯蔵したさといも種芋の生産力を調査する実証ほを設置した。

○同グループでは、本年１月の寒波により土中で貯蔵していた種芋が腐り、県下で種芋が不足したことから、年内に収穫した芋の中から種芋に適した小さな孫芋を随時、種芋として選別、貯蔵する出荷体系を種苗会社及び農業法人と検討している。

○なお、分割し貯蔵した種芋は、薬剤浸漬時に浮き易きやすいことから、その生産力に疑問を持つ生産者が多く、県内では種芋を分割して貯蔵するケースはほとんどないものの、当グループの調査では、芋が薬剤浸漬時に浮くのは貯蔵用分の消費よりも分割部にできるコルク部が浮力を持ち浮く場合がほとんどで、コルク部を除去すればほとんどの芋は水に沈むことを確認している。

○実証ほでは、南予地方局及び農林水産研究所の協力を得て、分割の有無や様々な条件で貯蔵された芋が定植されており、今後、それぞれの発芽時期や生産力が確認される予定。

○当グループは、今後も県下の関係機関と連携し、種芋の安定供給体制の整備に取り組む。

実証ほでの定植作業

分割保存した種芋

■コロナ禍における新たな裸麦優良種子のほ場審査がスタート

○高度普及推進グループは、裸麦「ハルヒメボシ」の優良種子を確保するため、４月 26 日、28 日に、伊予市、松前町の採種ほ場においてほ場審査（成熟期）を実施した。

○同グループでは、審査に先立ち事前の調査を４月 19～21 日に実施し、雑草、病害の発生がある場合には生産者に対し、事前に調査結果を通知しほ場審査までの改善を促していた。

○今回の審査では、新型コロナウイルスの感染拡大に配慮し、生産者に立会・案内を求めず、同グループが事前にマッピングした地図を基に関係職員だけによる審査が実施されており、これまで代表者に一括で伝えていた審査結果についても、生産者個別に文書で伝達する新たな体制が取られている。

○なお、事前の調査結果の通知等によりほ場管理が徹底されたことから、本審査において不適格と判断されたほ場は 11 ほ場（昨年 30 ほ場）に留まっている。

○当グループでは、今後の積算気温や天気予報及びほ場の状態により、刈取日を関係機関と協議し生産者に指導することとしており、引き続き優良種子の生産、確保に取組む。

2021年4月21日

様

米麦振興協会
愛媛県農産園芸課

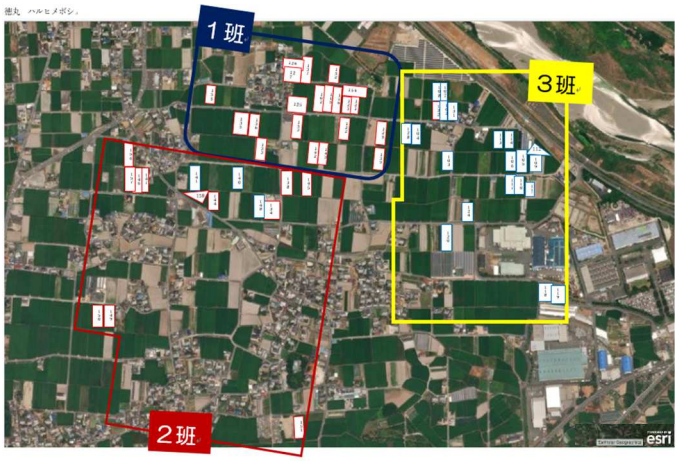
採種圃場 第Ⅱ期事前審査結果による圃場管理について

お世話になります。
事前に審査を実施したところ以下のような圃場管理状況となっています。
本審査までに、雑草や異株の除去といった管理を実施してください。
なお、【 B+ 、 C 】判定となっている圃場で、本審査までに改善が認められない場合は種子として受入れとなりませんので ご注意ください。

圃場番号	住 所	判定	指摘事項
6	尾崎本城257	B＋	ｶﾗｽﾑｷﾞｴﾝｼﾞｳ裏除去､ｽｽﾒﾉﾃｯﾎﾟｳ､ｽｽﾒﾉｺﾞﾛﾂﾂ少
7	尾崎宮下226	B	ｽｽﾒﾉﾃｯﾎﾟｳ多、ｱﾒﾘｶｳﾛ､ﾔｴﾑｷﾞﾗ
9	尾崎宮下222	A	ｽｽﾒﾉﾃｯﾎﾟｳ､ﾔｴﾑｷﾞﾗ中、ｱﾒﾘｶｳﾛ少
10	尾崎宮下235･236	A	ｽｽﾒﾉﾃｯﾎﾟｳ､ｽｽﾒﾉｶﾋﾞﾗ､異株1
11	尾崎宮下201-1	B	ｽｽﾒﾉﾃｯﾎﾟｳ､ｽｽﾒﾉｶﾋﾞﾗ､ﾔｴﾑｷﾞﾗ
12	尾崎宮下187-1	B＋	ｶﾗｽﾑｷﾞｴﾝｼﾞｳ裏除去､ｱﾒﾘｶｳﾛ､ﾔｴﾑｷﾞﾗ､ｽｽﾒﾉｶﾋﾞﾗ
159	尾崎宮下137	B	ｽｽﾒﾉﾃｯﾎﾟｳ､ｽｽﾒﾉｶﾋﾞﾗ､ﾔｴﾑｷﾞﾗ多
160	尾崎宮下130-1･131-1	B	ｽｽﾒﾉｶﾋﾞﾗ､ｽｽﾒﾉﾃｯﾎﾟｳ少

【判定基準】 A:特に問題なし　B:審査で再度確認　C:種子圃場として不適当
B+:不適当とまでは言えないが、管理をしなければC判定となる

事前調査結果通知書



採種圃審査区分図【松前町徳丸】（ﾍﾞｰｽMAP:ESRI）

■「甘平」の裂果対策技術の効果の確認に向けて実証ほを設置

○高度普及推進グループは４月下旬、昨年度に取りまとめた県オリジナル柑橘「甘平」の裂果対策技術の効果を確認するため、西条市に実証ほを設置した。

○本実証は、毎年裂果している施設園地において、根域が浅く吸水が不安定になりやすい状況を改善するため、硬盤層を部分的に破壊し、土壌改良資材（ピートモス）を混和しながら深さ 40cm まで深耕すること等により、地中深くに根域を拡大させ水分変化が少ない栽培環境を整えようとするもの。

○なお、コロナ禍の中、今回の実証ほの設置については生産者との接触を避けるため、事前の生産者との打合せ以外は当グループ員だけで実証ほの設置作業を行っている。

○今年度、普及指導員果樹調査研究会では、立地やほ場条件で異なる根域環境等に応じた対策を各普及拠点が実証し、その結果を基に効果的な裂果対策技術が検討される予定で、当グループでは、調査研究会の活動を通して普及指導員の現地活動及び資質向上を支援する。

実証ほの根域（深さ 10cm 程度）

樹冠外周直下の土壌改良（幅×深さ 40cm）

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898－68－7322 FAX:0898－68－3056
四国中央	東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896－23－2394 FAX:0896－24－3697
今治	東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898－23－2570 FAX:0898－22－9724
しまなみ	東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897－72－2325 FAX:0897－72－1912
中予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089－909－8762 FAX:089－909－8395
久万高原	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892－21－0314 FAX:0892－21－2592
伊予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089－982－0477 FAX:089－983－2313
南予	南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895－22－5211 FAX:0895－22－1881
鬼北	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895－45－0037 FAX:0895－45－3152
愛南	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895－72－0149 FAX:0895－73－0319
八幡浜	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894－23－0163 FAX:0894－23－1853
大洲	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市東大洲 174 TEL:0893－24－4125 FAX:0893－24－5284
西予	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894－62－0407 FAX:0894－62－5543